

糖尿病内分泌内科

■小見 理恵子 糖尿病内分泌内科部長

日本内科学会認定医，日本糖尿病学会専門医，
日本医師会認定産業医

■高橋 正典

日本内科学会認定医，日本糖尿病学会専門医，
日本循環器学会専門医，日本医師会認定産業医，
日本睡眠学会認定医，
日本医師会認定健康スポーツ医，
日本温泉気候物理医学会認定温泉療法医

■田中 麻美（健康管理センター医長兼務）

日本内科学会認定医，日本糖尿病学会専門医

■大岡 愛子（非常勤）

日本内科学会認定医，日本糖尿病学会専門医，
日本医師会認定産業医

■浜野 久美子（非常勤）

日本内科学会認定医，日本糖尿病学会専門医，
日本糖尿病学会研修指導医，
日本内分泌学会専門医，日本内分泌学会研修指導医，
日本抗加齢医学会専門医

2013年度 活動状況

展望

①標準的な糖尿病 内分泌代謝疾患に対する医療の提供

- ・地域医療連携および院内各科よりのご紹介患者を含め教育入院7泊8日を引き続き実施。病棟ではフットアセスメントを入院患者全員に運用し，すみやかなケア，処置の実施，専門科受診などにつなげる役割を果たす。
- ・糖尿病療養指導士（CDEJ）（手塚奈央子，佐藤三津子）による療養指導看護師外来。外来インスリン・GLP1製剤導入，心理面を含めた療養指導，さらにフットケア外来などを行い，質の高い糖尿病診療を継続。

- ・療養指導連絡会議を定期的に開催し，糖尿病治療に携わる各職種(医師，薬剤師，看護師，管理栄養士，理学療法士，検査技師，CRC)の連携を強化，教育入院や外来教室の見直しを行う。

- ・CDEJとして看護師 佐藤三津子，手塚奈央子，宮澤留衣，CRC 麻生圭子，薬剤師 斉藤佳苗，管理栄養士 滝澤美喜子，岩井菜穂子，検査技師 伏見佳菜子，理学療法士 根本敬，野口貴子，増田真希が活躍。2013年度はCDEJ認定試験にCRC 鈴木章子，管理栄養士 須釜典子が合格，チーム医療として専門性を発揮。

- ・月1回土曜日の外来糖尿病教室を引き続き実施。週末を利用した短期の教育入院としても対応。

- ・病診連携(DM2 システム)については，引き続き推進の方向で，教育入院終了された方，治療安定された方については積極的に地域への逆紹介を行う。また逆紹介後1年目に病診連携室を通じてフォローアップ案内状を郵送し，希望者にDM2外来枠においてフォローアップを行う。今後も地域医療連携は推進していく予定である。

- ・他科入院患者の血糖管理についても入院患者のアウトカム(転帰，入院日数など)に寄与すべく対応。

②先進的医療への取り組み

- ・CGMS（持続血糖モニター）は症例数を重ね妊娠糖尿病や不安定糖尿病やインスリン療法の見直しに有用性を発揮。

- ・血糖変動の大きい1型糖尿病患者などには，積極的にCSII（持続皮下インスリン注入療法）の導入を行う。

③臨床研究

厚生労働省主管の糖尿病血管合併症予防のための戦略的プロジェクト研究実施施設J-DOIT3に参加，2006年7月より研究開始，2013年3月に7年目をむかえ順調に推移，研究計画の変更による期間延長

に伴い、参加登録者に同意をいただき継続観察中である。

臨床治験については積極的に行い、糖尿病領域における新薬(SGLT2薬、DPP4阻害薬、GLP-1製剤など)の使用経験を通じて新しい糖尿病治療に関する研鑽を深めた。

日、鎌倉地域の寺社をシンボルカラーのブルーにライトアップするイベントをとり行った。当科においては7年目にあたる2013年もひきつづき活動を展開。長谷寺においては当院スタッフによる医療相談、血糖・HbA1c測定などを行い、参加者は500名の盛況であった。

診療実績

年間診療実績

外来	10,117件
入院	80件
糖尿病療養指導	567件 (初回118名)
外来自己注射導入(インスリン・GLP-1関連薬)	45件
外来糖尿病教室	47名
電話相談	67件

学術業績

(1) 学会発表

1. 高橋正典：睡眠呼吸障害の血糖変動に及ぼす影響-CGMSによる検討，第56回日本糖尿病学会，熊本，2013，5.
2. 岩井菜穂子：外来糖尿病教室参加者の食事に対する意識調査，第56回日本糖尿病学会，熊本，2013，5

(2) 講演・シンポジウム

1. 小見理恵子：第6回CKD & DM SUMMER SEMINAR in Kamakura，座長，2013，7.
2. 4病院合同抄読会 2013年3月，7月，10月

その他

世界糖尿病デーイベント 2013年11月9日

2006年12月，国連により11月14日を「世界糖尿病デー」と策定され，初の国内活動が2007年11月14